

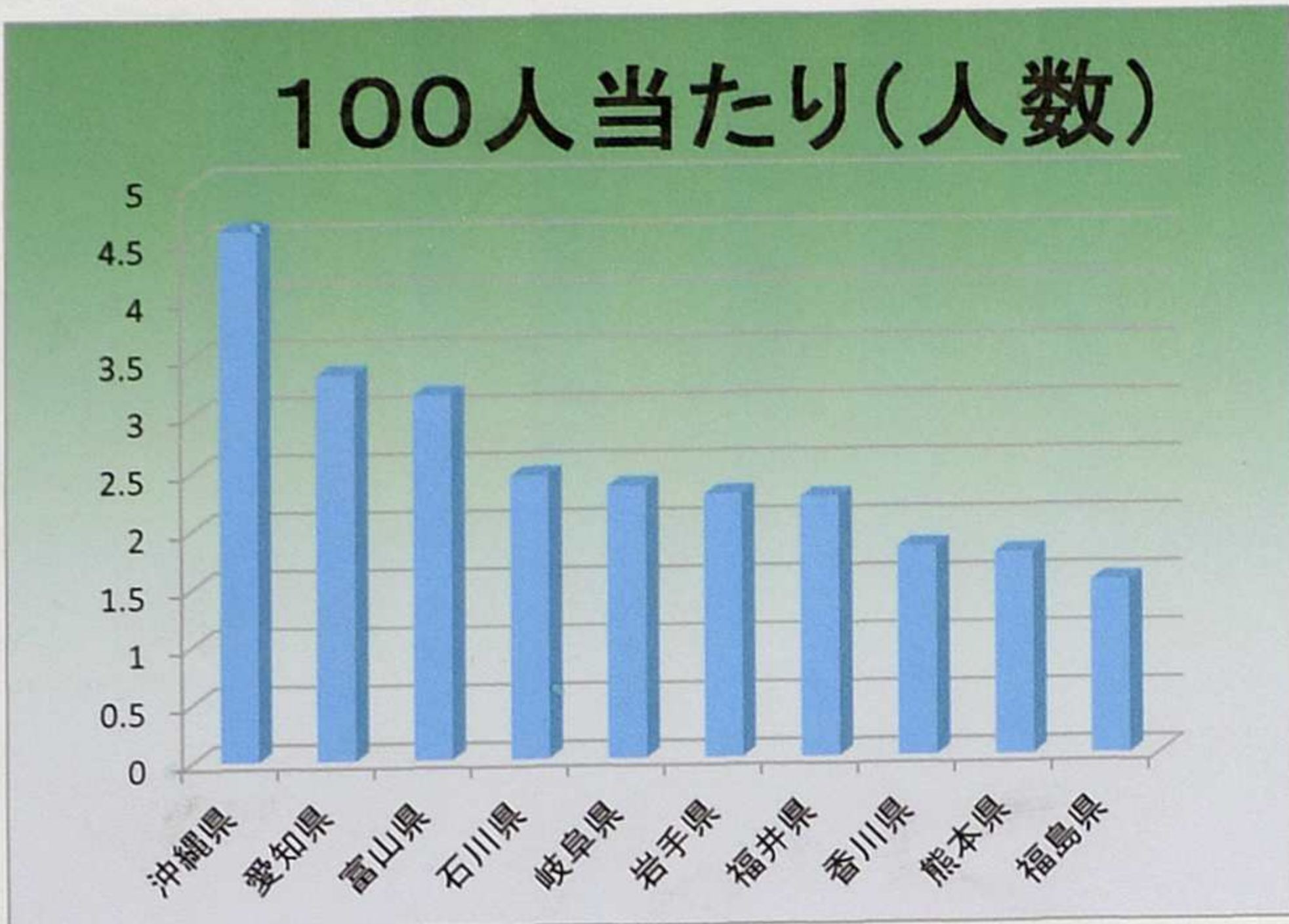
ハンドボール むようよ！

1. 中学男子ハンドボール部員数ランキング

順位	都道府県名	総数(人)	百人当たり(人)
1	沖縄県	1,197	4.59
2	愛知県	3,677	3.34
3	富山県	492	3.16
4	石川県	418	2.45
5	岐阜県	744	2.35
6	岩手県	444	2.27
7	福井県	283	2.24
8	香川県	255	1.8
9	熊本県	483	1.74
10	福島県	468	1.49

順位	都道府県名	総数(人)	百人当たり(人)
1	愛知県	3,677	3.34
2	神奈川県	1,656	1.39
3	東京都	1,304	0.84
4	埼玉県	856	0.85
5	岐阜県	744	2.35
6	大阪府	716	0.56
7	富山県	492	3.16
8	熊本県	483	1.74
9	福島県	468	1.49
10	茨城県	461	1.05

出典：都道府県統計とランキングで見る県民性HP
2010年のデータ



・100人当たりで見ると沖縄県が多い。
・地域別では、愛知県を中心とした、中部・北陸地方が盛んであることがわかった。
・総数で見ると、首都圏が多い。
・ちなみに、山梨県の部員総数は154人で、30位。百人当たりは1.13人で17位でした。

2. 全国中学体育大会競技加盟校・生徒数の推移(男子) 軟式野球・卓球・サッカー・ハンドボール

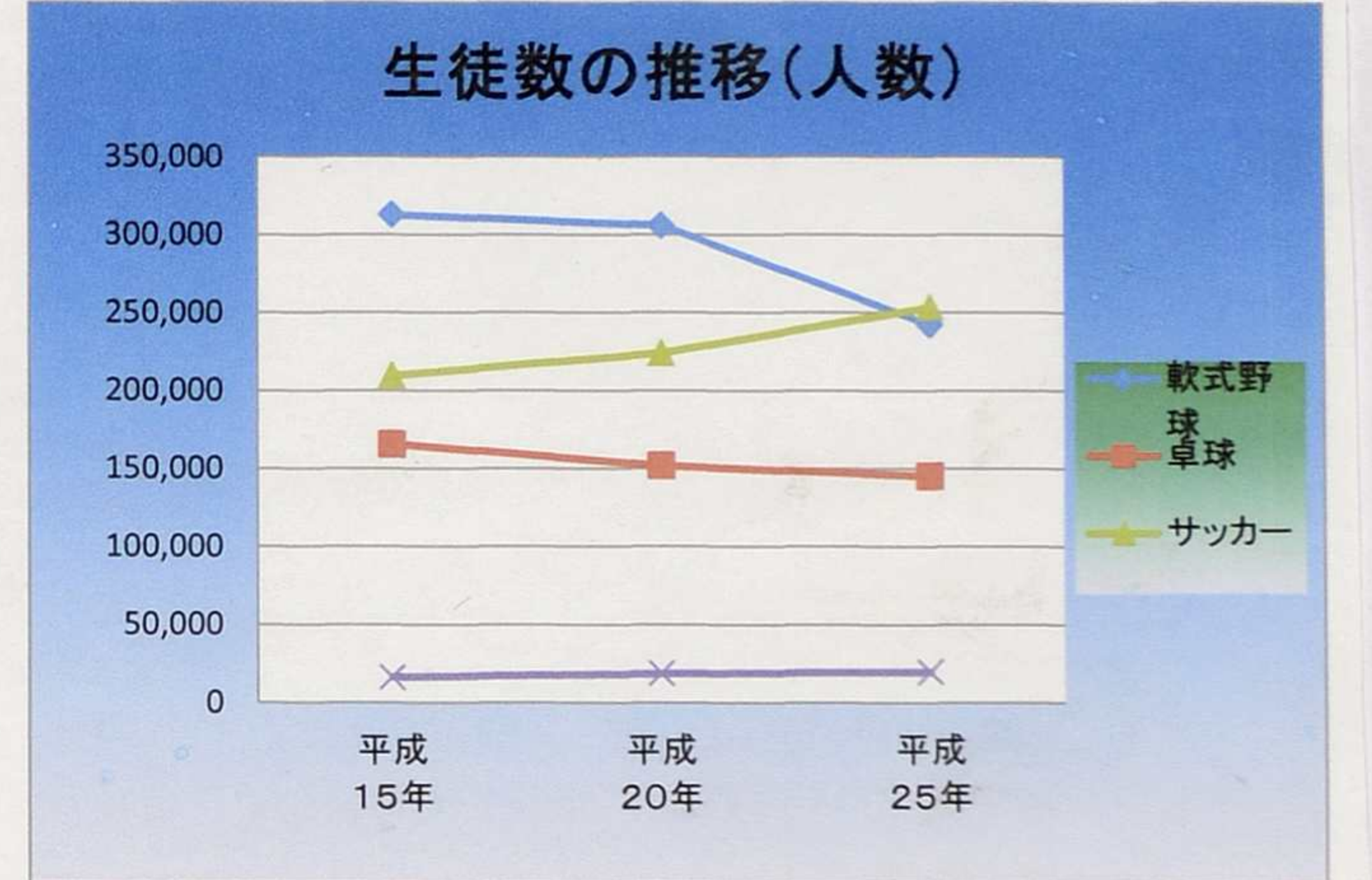
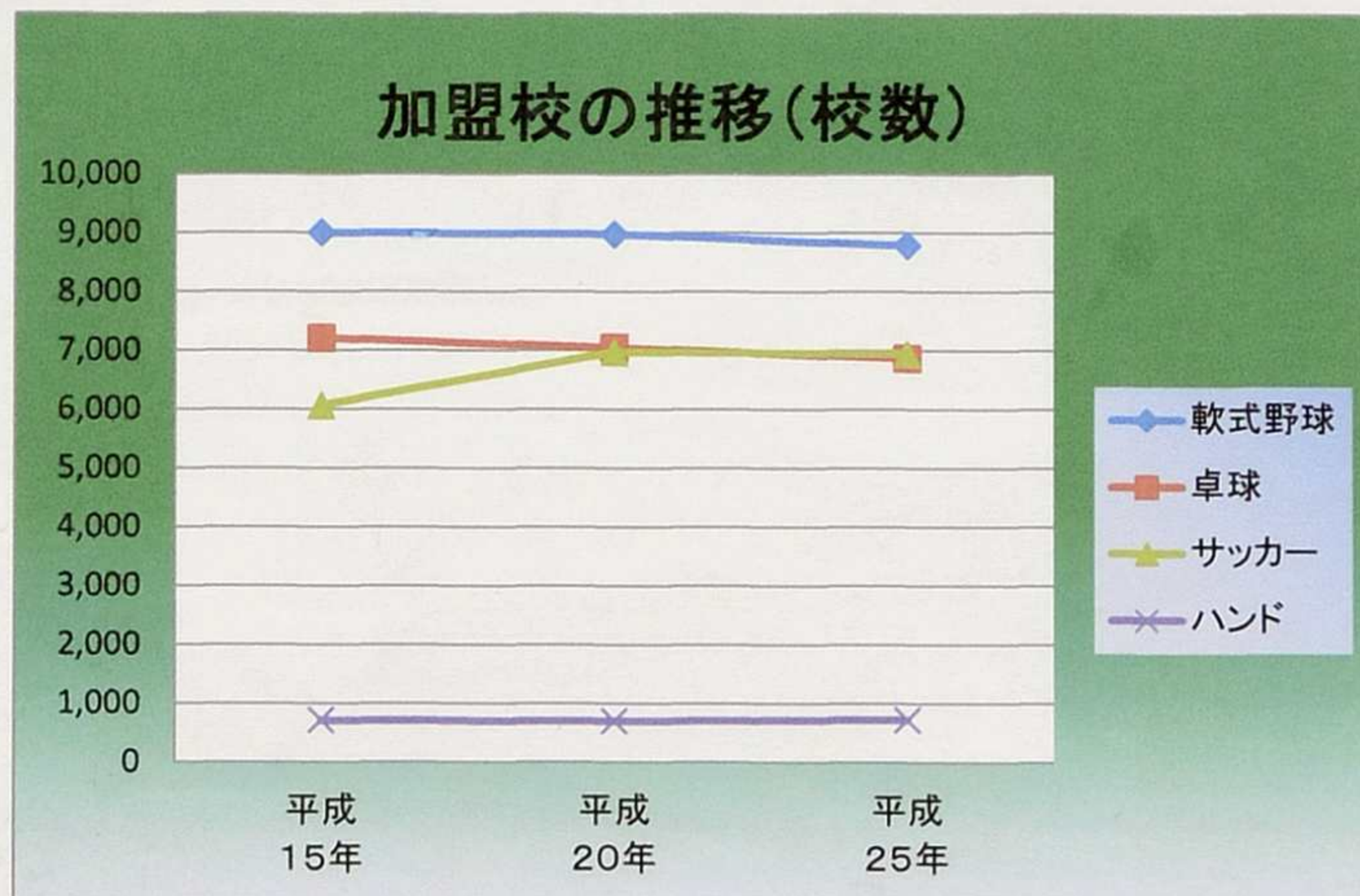
加盟校(校)

	軟式野球	卓球	サッカー	ハンド
平成15年	9,007	7,212	6,069	718
平成20年	8,978	7,052	6,980	702
平成25年	8,788	6,872	6,948	728

生徒数(人)

	軟式野球	卓球	サッカー	ハンド
平成15年	312,811	165,810	209,763	16,361
平成20年	305,958	152,003	224,200	18,725
平成25年	242,290	145,257	253,517	19,774

出典：日本中学校体育連盟HP



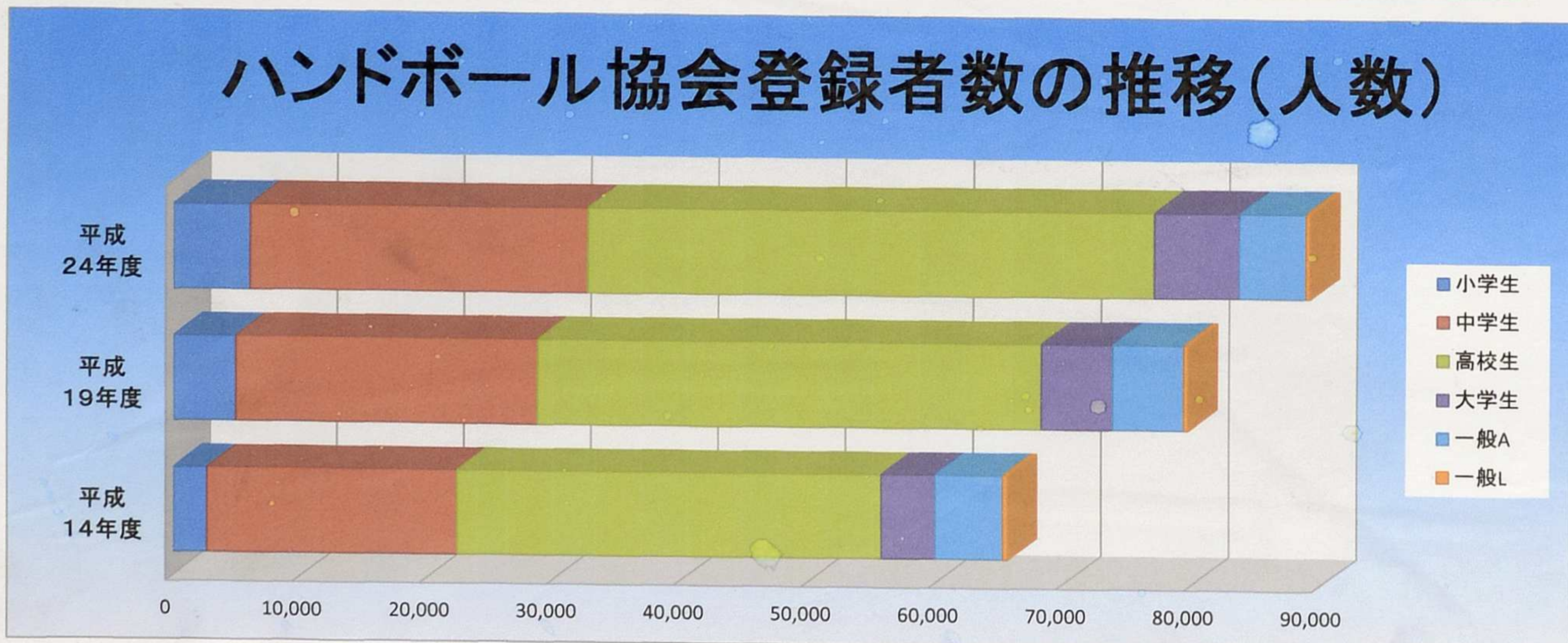
・野球は平成20年～25年にかけて、加盟校、生徒数が著しく減少している。減少数は、加盟校は約200校、生徒数は約5,000人で最近では野球離れが進んでいる。
・卓球は5年ごとに、緩やかに加盟校が減少している。生徒数は5年ごとに野球よりも減少している。減少数は加盟校は約150校、生徒数は約7,000人減少しておりこのままいくと将来が心配である。
・サッカーは加盟校は平成15年～20年の間に大幅に増加し生徒数は10年間にわたり増加傾向があるが、特に平成20年～25年の間に約30,000人も増加した。やはり、対象年齢が幼児期や学童期にJリーグの発足、ワールドカップの日本での開催、出場が大きく影響したのではないかとと思われる。また上記2スポーツの減少はサッカー人気の影響が大きいのではないかと考えられる。
・ハンドボールは加盟校は10年間、増減はあるものの、約700校あまりでとどまっている。生徒数は増加傾向がみられる。この10年間で、約3,000人増加している。しかし他のスポーツから見ると加盟校、生徒数ともに0が一つ少なく、残念ながらメジャースポーツになっていない。

3. 日本ハンドボール協会登録者数の推移

	小学生	中学生	高校生	大学生	一般A	一般L	合計
平成14年度	2,672	19,687	33,324	4,224	5,320	340	65,567
平成19年度	4,912	23,805	39,541	5,564	5,577	287	79,686
平成24年度	6,035	26,611	44,396	6,647	5,212	284	89,185

一般A：一般L以外の社会人チーム
一般L：日本リーグ加盟チーム

出典：(財)日本ハンドボール協会HP



・年度ごとの全体を見ると、増加傾向にあり特に平成14～19年にかけて約14000人増加した。その中でも中学生、高校生の増加が著しい。
・構成割合から見ると、やはり中高生の割合が高く、平成24年度では、約80%を占めている。大学生になっても続ける人が少ない。また大学生で続けると、社会人になっても続けている。
・日本リーグに加盟している人は平成24年度では、1パーセントにも足らず、現役選手として活躍する人は少ない。

ハンドボールの問題点

- ① サッカーが大人気！！ハンドボールは知られてないスポーツ？
- ② 中学校から始めて高校までで、やめる人が多い。
- ③ 社会人競技者が少なく、なおかつ小学生の指導者が少ない。

問題点の解決策

- ① テレビや新聞などでハンドボールの試合や選手を取り上げてもらう。
- ② 大学や社会人でも続けられるような環境づくりをする。
フットサルのようにサークル活動を活発にしてネットワークを広げる。
- ③ ヨーロッパで行われているように、人数を減らし、コートや狭めルールを簡単にして、小学生でも気軽に楽しめるスポーツにする。またそれを授業にも取り入れる。